

事務事業	10005	離乳食づくり教室開催事業	担当課 課長	健康課 作本 和美	担当係 担当者	健康管理係 森近 修子
計後 画期 体計 系画	施策 05	子どもを安心して生み育てることができるまちをつくる	予 算 科 目	会計	1	一般会計
				款	4	衛生費
				項	1	保健衛生費
				目	5	食生活改善推進費
法令根拠条例等			個別計画	健康増進計画「健康しめ21」		
実施期間	<input type="checkbox"/> 28年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H12 年度より開始 <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度～ 年度					

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 第1子の親に案内を送り、3～4ヶ月児健診日(毎月第1金曜日)の午前中に行う。離乳食づくりの知識の習得と作り方等を体験してもらい、育児不安の軽減を目的とする。	<input type="checkbox"/> 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 教室に関する企画、発注は町栄養士が行い、教室の準備、講話、実習は委託栄養士と2名で実施。個人通知は事務職が4ヶ月健診通知に同封し、受付と教室の間の託児等は健康課スタッフ(保健師・看護師)と託児業務委託スタッフが行う。	離乳食づくり教室講師委託料 120 千円
	消耗品費 81 千円
	託児委託料 78 千円
	千円
	千円

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

事務事業の目的	① 手段(主な活動) 28年度に行った主な活動(※箇条書きで記入) 離乳食教室 12回/年実施	④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	指標数値				
	② 対象(誰、何を対象にしているのか) 第1子(3～4ヶ月児)を持つ親	名称	単位	27年度	28年度	29年度	
		ア 離乳食教室参加者数(親のみ)	人	139	148	150 (見込)	
		イ				(見込)	
	③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか) 離乳食に関する不安や悩みを解消して、親が食は心と体を育てるということを認識しながら、楽しんで子育てができるように支援する。	⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	名称	単位	27年度	28年度	29年度
			ア 第1子(3～4ヶ月児)を持つ親数	人	218	212	210 (見込)
イ						(見込)	
⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		名称	単位	27年度	28年度	29年度	
		ア 離乳食教室参加満足度(よかった回答数)	%	目標	98.0	98.0	98.0
				実績	98.4	96.0	
	イ 離乳食を作ろうと思った参加者の割合	%	目標	98.0	98.0	98.0	
			実績	93.8	100.0		
	ウ		目標				
		実績					
エ		目標					
		実績					
オ		目標					
		実績					

(2) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(千円)		27年度 (決算値)	28年度 (当初予算)	28年度 (決算値)	29年度 (当初予算)	30年度 (計画)	31年度 (計画)	
	経費	国・県支出金、地方債等							
		受益者負担等	58	42	57	42	42	42	
		一般財源	184	262	221	301	301	301	
		合計(A)	242	304	278	343	343	343	
		(内臨時・嘱託職員人件費)							
		正職員人件費[按分](B)	2,223	1,481	1,479	1,959			
	トータルコスト(A)+(B)	2,465	1,785	1,757	2,302	343	343		

事務事業評価表(事業実施年度:平成28年度)

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか?	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記)
志免町は若い転入者が多く、また核家族化で誰にも育児の相談ができず、特に食に関しては『離乳食が本通りにいかない、食べむら、遊び食べ』等で悩む親の声が多く10年前ぐらいから健診や窓口、電話相談で多く寄せられていた。そこで子どもが食べ始める離乳食から若い親に食の基本的知識と栄養面だけでなく、親子の関わりが子どもにとっての第2の栄養となることを学んでもらうために開始した。	15年に次世代育成支援対策推進法が策定され、その行動計画策定指針の中に「市町村行動計画及び都道府県行動計画の内容に関する事項」で母性並びに乳児及び幼児等の健康の確保及び増進があり、「食育」の推進が明記され、市町村の行動計画として確立するよう謳われている。	受講者からは育児書などを見てもわからなかったが実際に作り方がわかってよかったや、わかりやすかったなどの声が多く聞かれている。思ったより簡単で安心したという意見もあり、初めての育児で何をするのに不安なことが多い中で、不安の解消につながっている。

(4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		28年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成28年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	月よりの参加率の変動が激しく、予測できないことから託児の委託を1名増やし、足りない時に健康課職員が補助するように体制を整えたいと思います。	<input checked="" type="checkbox"/> 記述どおり実施できた(コメント必要ありません) <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	

2 評価(SEE)及び全体総括の部*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1) 評価

	評価の理由
目的妥当性評価 ① 上位施策への貢献度は大きいですか? ※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→)	第1子の親を対象に、初めて作る離乳食について直接見て、試食してもらうことで理解が深まり、不安の解消につながっている。また、教室に参加して同じ月齢の子どもを持つ親と長い時間一緒にいることで仲間づくりにもなり、子どもを安心して育てる支援になっている。
② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか? (事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	核家族が多く、離乳食を作るのに不安に思う母親が多い。また、育児書などに書いてあるものを見てもわかりにくく、同じようにしないでほしいと思いき、実際と違うことで悩む場合が多いのを見ると個別に話をしながら、アドバイス出来る機会は育児支援につながっている。
有効性評価 ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→)	第1子の親の半数以上が参加され、その多くはよくわかったという回答を得られていることからこれ以上の向上の余地はないと思われる。参加されなかった第1子の親や希望される第2子以降の親に対しては、4か月児健診の際に栄養相談として、離乳食の進め方を説明している。
④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	これに代わる教室がないため、なくなれば食に関する母親の子育て不安が増すと思われる。
効率性評価 ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか?(広域連携や民間委託等の導入など) <input checked="" type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input type="checkbox"/> ない(理由→)	委託業者から保育士2名を委託し、健康課の保健師他スタッフと一緒に教室中の託児を担ってきたが、参加者の増加に伴い託児の負担が増えたので教室のやり方を変更する必要があると思われる。

(2) 28年度を振り返って(全体総括・反省点)

職員、嘱託職員の産休・育休でスタッフが減り、参加者も増加したことで教室時の託児の負担が増えた。年度途中から実習を無くし、デモンストレーションのみにすることで調理実習室で教室を行う必要がなくなり、子どもの近くで受講できることが可能になり、赤ちゃんの泣く回数も減って、託児の負担を軽減することができた。次年度は年間を通じた内容の変更を試みたいと思います。

3 今後の方向性(29年度以降の計画と30年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可)	(2) 平成29年度以降に取り組む内容と期待される効果
<input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input checked="" type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→ <input type="checkbox"/> 事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	実習を無くし、講話とデモンストレーションで行うことで赤ちゃんと一緒に受講することが可能となった。母親と一緒にいることで安心でき、泣く回数も減ったことからスタッフの託児負担を軽減できた。また、委託保育士を1名増やすことでスタッフ総がかりでしていた託児から通常の業務ができる体制をつくりたいと思います。